

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア
活動センター
通信 vol.44

(令和3年7月発行)

今年もバラをみせることが出来ました！！

冬が終わり、春になる。暖くなる。いろいろな花が色鮮やかに目を楽しませてくれる。その中で一番人気があるのは何だろう。バラの花ではないだろうか。バラと書くよりも薔薇と書けばその鮮やかな色、そしていい匂いの薔薇が目に見え、鼻に浮かんでくる。

宇都宮市内でもあちこちでバラの花を見る事が出来る。近隣でも大掛かりに薔薇の花を堪能できる所に井頭公園のバラ園がある。

もう一つ、今回紹介したいのが那須烏山市の根本健さんの自宅庭園のバラ園である。奥さんと2人で丹精込めて栽培した350本の薔薇を一般開放している。今年は例年より1週間程早いという事だ。5月18日に開放したが、5月末が満開を迎えるという事で29日に行ってきた。駐車場に車を入れると途端に素晴らしい色と匂いを感じる。今年は栽培面積も広がっているらしい。山間のバラ園で周りの自然と非常にマッチしている。今年は一般公開できたが去年は新型コロナウイルスの影響で一般開放できなかった。今年もいろいろ葛藤があったのではないだろうか。でも見せる事が出来たし、我々も見ることが出来た。秋は日照時間の関係で良い状態を維持するのが難しいとのこと。また、1年後、来春の薔薇を楽しみにしたい。

さて、44号もボランティア活動を続けられている方々を紹介します。



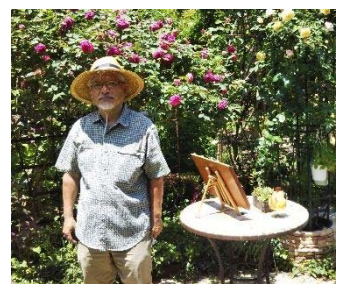
① 中村さん



② 小林さん



③ 白石さん



根本さんのバラ園

- ① ミヤラジで宇都宮を元気に
- ② 海外旅行者へのおもてなし
- ③ グラウンド・ゴルフが元気なみなもと

中村 長司 さん
小林 信介 さん
白石 正敏 さん

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575
ホームページ：https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp

① ミヤラジで宇都宮を元気に

中村 長司 さん

取材：肥後特派員



ラジオで宇都宮を盛りあげている人を紹介します

『7月3日土曜日、時刻は午後5時になりました。毎週土曜日のこの時間は「地元盛りあげ隊」をお送りしております。---中略---地元を盛り上げようと頑張っている個人、団体をご紹介する番組です。ナビゲーターはミヤラジパーソナリティー中村長司（たけし）です』

ラジオをFM77.3MHzに合わせます。テーマソングである懐かしいドーンの「幸せの黄色いリボン」にのせ番組が始まりました。そして滑舌のいい魅力の低音が聞こえてきました。

この「幸せの黄色いリボン」は、中村さんの青春時代に感動した思い出の強い歌です。刑務所を出所した男が「妻がもし自分を待っていてくれるのであれば家の樫の木に黄色いリボンを結んでいてくれるはずだが」そしてその結末は？そうです。高倉健の「幸せの黄色いハンカチ」のもとになった曲です。

ここはオリオン通り江野町7・8堺屋ビル2階にある通称ミヤラジのスタジオです。皆さんはミヤラジの番組を聴かれた事がありますか。「つたわる、つながる、うつのみや」のミヤラジです。ミヤラジは2017年3月に地元の情報をつなぐコミュニティFMラジオとして重要な役割を担ってスタートしました。

中村さんは以前「宇都宮といえばカルビー、カルビーといえば宇都宮」で有名なカルビー株式会社で有能な営業マンとして勤められていた方です。もともと荒川区出身で下町育ちの中村さんですが、宇都宮を「終の棲家」にすると決めた時、宇都宮をよくしていきたいと考えました。その後「コミュニティFM研究会」に参加して、稲葉社長とも知り合うこととなり夢を語り合ってきました。「宇都宮のいろいろな方との出会いがあり、毎日が楽しくそして夢のある仕事だ」と言われます。

市内横山にお住まいです。68歳になります。まだまだ若々しい。声を聴くとすぐにわかります。プロの喋り手の方に大変失礼な言い方ですが、滑舌のいいおしゃべり、そして低音が心地いいのです。

そして中村さんはお忙しい中、いろいろなボランティアもやられています。「傾聴ボランティア」の「傾聴こだまの会」で毎月2か所の施設を回られています。また「豊郷地区地域内交通」（地区内において買物や通院に高齢者が利用しやすくなる「ドアツードア」の交通システムです）に関わられ秋には5万人の利用が見込まれる状況になりました。

ミヤラジの開局の使命は、万一の時には災害情報を伝え、普段は宇都宮のまちを元気にするお手伝いをする事です。

中村さんは「宇都宮を盛りあげている方、生き生きと過ごしている方を紹介したい」と言われます。身近にそういう方がおられたら是非ご紹介ください。これからも市民の皆さんを楽しませて下さい。そして我々も「77.3FM ミヤラジ」を聴きます。



② 海外旅行者へのおもてなし

小林 信介 さん

取材：細川特派員

「世界遺産日光」の魅力を外国からのお客様に紹介，案内されている，小林信介（こばやししんすけ）さんにお話を伺いました。

小林さんは，大学院まで物理工学を学ばれ，ご卒業後は教職に就かれました。

2014年に職を辞され，お母様の介護をされていましたが，2014年6月にお母様を見送った後人の為に役立てる事はないかと熟慮した結果，以前から外国人と話す楽しさを感じていたことを思い出し「宇都宮SGGクラブ」に入会することにしました。

SGG（システムタイズドグッドウィルガイド）とは，組織化された善意通訳という意味で，外国人観光客が安心して楽しく旅行が出来る様に，接遇（お客様に寄り添った丁寧なおもてなし）をする団体です。「宇都宮SGGクラブ」は宇都宮駅構内での外国人観光客の電車の乗り換えの手伝いや，県内の観光地に出向き，観光客を案内する活動をしています。案内に必要な外国語や日光についての勉強会，さらにスマホなどITの使い方に関する研修会も会員向けに開催されています。



小林さんが案内した外国人観光客の国籍は，スペイン，イタリア，ハワイの日系3世，メキシコ，フィリピン，ベトナムなどです。まず，来日前にお客様から会宛にガイドの要請があり，担当者が決まります。担当者になると先方と英語でメールのやり取りをし，スケジュール調整をします。特に食物アレルギーの有無や宗教による食事の制限などを確認することは大切です。季節や観光地の交通事情を考えて，旅程を作成します。「日光は世界遺産に登録されており，歴史，文化，自然，温泉やイベントと魅力いっぱいの上，東京からの交通の便も良いので，絶好の観光地となっています」と小林さん。「歴史の勉強や毎日欠かさない英会話レッスンなど，物理教育から日光ガイドへの転換は大きなチャレンジでしたが，人と心が通じ合うようになって面白くなってきました」と小林さんはおっしゃいます。

しかし「外国人相手のガイドはハードルの高いボランティアですね」と私が申しましたら，「おもてなしの心が最も大切です。おもてなしの心があれば，多少の困難があっても乗り越えることができます」と小林さんは笑顔で話されました。

外国からのお客様が日光を堪能し，また来たいと思っていただければ，日本国内での栃木県の魅力度アップにも繋がっていきたくらうと小林さんは考えています。

栃木県は，2020年版「都道府県魅力度ランキング」が最下位になってしまいましたが，日光をはじめ栃木県の魅力を発信することで，ランキングの向上を実現させたいですね。

③ グラウンド・ゴルフが元気なみなもと

白石 正敏さん

取材：猶原特派員

グラウンド・ゴルフを楽しんでいる白石正敏さんをお尋ねしました。

グラウンド・ゴルフは1982年（昭和57年）に鳥取県で生涯スポーツ活動推進事業の一環として考案された新スポーツで高齢者でも楽しめ、現在愛好者は推定全国で360万人といわれています。グラウンド・ゴルフは専用のクラブ、ボールを使って、ホールポストにホールインするまでの打数を競うゲームです。1コースは15m, 25m, 30m, 50m各2の8ホールで構成され、これを4回まわるのが一般的だそうです。

白石さんがグラウンド・ゴルフを始められたきっかけは、シルバー大学校入学時に興味を持ちクラブに入会されたのが始まりで、卒業時に約20名でニューウエストクラブを立ち上げ、会員の入れ替わりもあり、現在24名で週1回午後仲間と楽しんでいらっしやいます。昨年4月からは宇都宮西部グラウンド・ゴルフ協会の会長に就任され、さらに今年4月から栃木県グラウンド・ゴルフ協会の副理事長として県主催の行事等に関わられています。会長杯、知事杯を始めとする各大会、さらに全国大会、国体、ねんりんピック、レディス大会と行事が目白押しの状態です。屋外行事の為、暑い時期、寒い時期をなるべく避け、更に天候にも左右されるので日程調整が大変ですね。各県に日本グラウンド・ゴルフ協会の支部があり、栃木県も県北、県央、県南地区に分かれ、約2,000名の方が加入され、活動されています。そして正しい理解と普及のために指導者制度もあり、皆さん研鑽されています。



白石さんはグラウンド・ゴルフの外にも色々なボランティア活動に参加しています。

先ず「うつのみやシティガイド」として「大谷石文化」の認定ガイドをされています。平成30年度に日本遺産に認定され全国に知られるようになりました。毎月大谷平和観音、カネホン砕石場で観光ガイドをされています。特にカネホン採石場は露天掘りが見学出来る

唯一の場所でお薦めだそうです。次に「食生活改善推進員・健康づくり推進員」として国本地区で活動されています。食生活改善推進員とは「私達の健康は、私達の手で」をスローガンに、食を通した健康づくり活動を行う全国組織のボランティア団体です。健康づくりの3本柱である栄養・運動・休養を基本とした、適切な食生活の普及や住みよい健康で文化的なまちづくりを目指しています。また、今年4月から「杉の並木守」として日光杉並木街道の保護活動にも参加されています。そして現在コロナウイルスの関係で中止を余儀なくされていますが、特養ホームのボランティアにも参加されています。

このように、色々な活動を忙しく、幅広く行っていらっしやいます。速くコロナ騒ぎが収まって、従来通りのご活躍が出来ますよう祈っております。